

平成26年度 全国学力・学習状況調査

調査結果

- | | | |
|---|------------------|---------|
| 1 | 調査の概要 | 1 ページ |
| 2 | 教科に関する調査結果と今後の取組 | 2～3 ページ |
| 3 | 質問紙調査に関する調査結果 | 4～5 ページ |
| 4 | 羽幌町の今後の取組 | 6 ページ |

平成27年1月

羽幌町教育委員会

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

- ① 小学校調査 小学校6学年
- ② 中学校調査 中学校3学年

(3) 調査の内容

①児童生徒に対する調査

- ・ 教科に対する調査（国語、算数・数学）
 - 主として「知識」に関する問題（国語A、算数A・数学A）
 - 主として「活用」に関する問題（国語B、算数B・数学B）
- ・ 質問紙調査
 - 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査期日

平成26年4月22日（火）

(5) 調査を実施した学校

羽幌町立羽幌小学校
羽幌町立天売小学校
羽幌町立焼尻小学校
羽幌町立羽幌中学校

2. 教科に関する調査結果と今後の取組

(1) 教科に関する小学校調査の結果（国語、算数）

① 国語A

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題（15問）

■国語A全体の平均正答率は、全道・全国を上回っているが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の問題で全道・全国を下回っている。

※ 前年度の国語A全体は、全道・全国を下回っている。

② 国語B

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題（10問）

■国語B全体の平均正答率は全道・全国を下回っており、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」すべての問題で、全道・全国を下回っている。

※ 前年度の国語B全体も、全道・全国を下回ったが、その差は減少している。

③ 算数A

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題（17問）

■算数A全体の平均正答率は全道を上回り、全国を下回っているが、「図形」、「数量関係」の問題で全道・全国を上回り、「数と計算」、「量と測定」で下回っている。

※ 前年度の算数A全体は、全道・全国を下回っている。

④ 算数B

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題（13問）

■算数B全体の平均正答率は全道を上回り、全国を下回っているが、「量と測定」、「図形」、「数量関係」に関する問題で全道・全国を上回っており、「数と計算」で下回っている。

※ 前年度の算数B全体も全道を上回り、全国を下回ったが、その差は減少している。

⑤ 今後の取組

<国語の取組>

「書くこと」、「読むこと」の正答率が低い傾向にあり、授業の中で難易度の高い記述問題を多く取り入れたり、自分の考えをノートにまとめる活動を積極的に実施する。

<算数の取組>

記述する問題の正答率が低い傾向にあり、自分の考えをノートに記述するなど、答えを導いた理由を説明させる機会を多く設定した授業を実施する。

(2) 教科に関する中学校調査の結果（国語、数学）

① 国語A

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題（32問）

■国語A全体の平均正答率は全道・全国を下回っており、「話すこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のすべて問題で下回っている。

※ 前年度の国語A全体も、全道・全国を下回ったが、その差は減少している。

② 国語B

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題（9問）

■国語B全体の平均正答率は全道・全国を下回っており、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のすべての問題で下回っている。

※ 前年度の国語B全体も、全道・全国を下回っている。

③ 数学A

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題（36問）

■数学A全体の平均正答率は全道・全国を下回っており、「数と式」、「図形」、「関数」の問題は下回っているが、「資料の活用」で全国を下回っているが、全道を上回っている。

※ 前年度の数学A全体も全道・全国を下回ったが、その差は減少している。

④ 数学B

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題（15問）

■数学B全体の平均正答率は全道・全国を下回っており、「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」のすべての問題で下回っている。

※ 前年度の数学B全体も全道・全国を下回ったが、その差は減少している。

⑤今後の取組

<国語の取組>

「読むこと」の正答率が低い傾向にあり、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読むことを意識させる指導や論説文・物語文など、長文問題になれるため読書活動の推進を行う。

<数学の取組>

「数と式」、「図形」において正答率が低い傾向にあり、基礎基本の定着と応用発展問題へ取り組みを実施する。

3. 質問紙調査に関する調査結果

(1) 児童・生徒に関する質問紙調査の結果

学習に対する関心・意欲・態度（国語、算数・数学、総合学習への関心等）、規範意識・自尊感情、学習の基礎となる活動・習慣（言語活動・読解力、生活習慣、学習習慣）に関する事項を主に、小学校・中学校とも 74 項目について、児童・生徒に質問を行った結果、全道・全国と比較して、概ね次の傾向が見られる。

<小学校>

- 国語の勉強は好きだが、算数に対する関心が低い。
- 一日の生活の中で、テレビゲームを行う時間の割合が高い。
- 家で、自分で計画を立てて、復習等を行っているが、宿題を行う割合が低い。
- 授業で、自分の考えを发表或し、学級の友達との間で話合う活動の割合が低く、「400 字詰め原稿用紙 2～3 枚の感想文や説明文を書くことが難しい」の割合が高いこととの関連が予想される。また、授業のはじめに目標（めあて、ねらい）が示された割合が低い。
- 学校の規則を守るという割合が低い。
- 問題に対して、最後まで回答を書こうと努力する割合が低い。

<中学校>

- 一日の生活の中で、テレビやビデオ、DVD、テレビゲーム、メールやインターネットに時間を使う割合が高い。
- 数学への関心は高いが、国語への関心は低い。
- 「平日、1日2時間以上勉強する。」、「学校の宿題をしている。」の割合が低い。
- 授業や活動を通じて、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたり、また、自分の考えを深めたり、広げたりできる割合が低く、友達に伝えることをうまく伝えることができる割合の低さへの関連が予想される。
- 授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示された割合が低い。
- 「学級みんなで協力し、何かをやり遂げ、うれしかった。」、「先生は自分の良いところを認めてくれる。」の割合が高いが、「学校に行くのは楽しい。」の割合が低い。
- 学校の規則を守るという割合が低い。

(2) 学校に関する質問紙調査の結果

教科指導（個に応じた指導、国語科の指導法、算数科・数学科の指導法）、学力向上（児童・生徒の状況、学力向上に向けた取組・指導法、家庭学習）、学校経営（地域の人材・施設の活用、教員研修・教職員の取組）に関する事項を主に、小学校では101の項目、中学校では99の項目について、学校に質問を行った結果、全道・全国と比較した、概ね次の傾向が見られる。

<小学校>

- 熱意をもって勉強し、授業中の私語が少なく、礼儀正しく、自分の考えを相手にしっかり伝え、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるなど、児童の状況に関する割合が高い。
- 学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたり、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導するなどの割合が高いが、学習方法（適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど）に関する指導をした割合が低い。
- 国語・算数の授業で発展的な学習の指導を行ったなど、国語科・算数科の指導法に関する割合が高い。
- 全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた、学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけるなど、家庭学習に関する項目の割合が低い。

<中学校>

- 国語、数学の総授業数が全道、全国より多い傾向にある。
- 学校生活の中で、生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ、生徒に伝えるなど積極的に評価した割合が高い。
- 保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけた割合が高いが、国語・数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えた割合が低い。
- 熱意をもって勉強し、授業中の私語が少なく、礼儀正しく、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかり伝えることかできているなど、生徒の状況に関する項目の割合が低い。
- 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて話を聞く、聞き手に向かって話しをする、授業開始のチャイムを守るなど)を徹底した、学級やグループで話し合う活動を授業取り入れるなど、学力向上に向けた取組・指導方法に関する項目の割合が低い。
- 国語・数学の指導として、漢字・語句など基礎的・基本的な事項の定着、計算問題など反復練習させる授業を行うなど、国語科、数学科の指導法に関する項目の割合が低い。

4. 羽幌町の今後の取組

今年度の全国学力・学習状況調査の結果を前年度と比較すると、国語A（小学校調査）の平均正答率が全道・全国を上回るなど、各教科とも全道・全国の平均正答率との差が減少傾向にあり、各学校の取り組みの成果が現れた状況となっている。

学力向上に関する取り組みについては、児童・生徒に関する質問紙調査の傾向から見られるように、家庭での学習時間の割合が全道・全国と比較して低いなど、学校の取り組みと併せて、家庭・地域との連携が必要となる。

<具体的取組内容>

□学力向上の取組

- ◆朝学習、放課後学習、朝読書、全校読書の実施
- ◆T Tを活用した個別指導及び習熟度指導の充実
- ◆各種テストの繰り返しによる基礎基本の定着
- ◆基礎学力定着を目的とした課題(プリント)配布
- ◆授業の終末に練習問題の時間を確保し、学習内容の確認を実施。
- ◆学習規律の定着を図る
- ◆校内研究の活性化と授業改善
- ◆外部人材を利用した長期休業中の学習会の実施
- ◆絵本の読み聞かせボランティアによる読書活動の充実

□家庭・学校が連携した家庭学習の定着を図る取組

- ◆学校だより、P T A集会時における家庭学習定着の周知
- ◆「家庭学習のすすめ・手引き」のプリント配布
- ◆生活リズムチェックシートによる実態把握と改善
- ◆家読の推進及びテレビ視聴等の時間削減の呼びかけ
- ◆「携帯電話教室」、「ネット電話教室」の開催
- ◆学年×10分の家庭学習の推進

□学校・地域・家庭と連携した取組

- ◆地域の特色を活かした総合学習の実施
- ◆体力・心力の向上のための各種スポーツ、自然体験事業の実施及び参加
- ◆外部機関と連携した環境教育の推進